総合学習	フリーターについて考える

年　　組　　番	氏名

【取り組みのねらい】

・小論文模試「フリーターについて、あなたの考えを書きなさい」に向けて、フリーターについての基礎知識を養う。
・キャリア教育の一環として取り組む。
・文章表現力の向上のため。

幸せのカタチ

働く楽しさを伝えたい

学生と社会人 橋渡し

中小企業の経営者13人がブースを構え、大学生たちが前のめりで話を聴く。2月下旬、静岡市内のホテルで開かれた「第2回JOBコン」。学生50人の学年はばらばら。リクルートスーツではなく、私服姿。普通の企業説明会とは違う。学生と経営者のコンパ、出会いの場だ。

企画したのはカフェの大手チェーン「タリーズコーヒー静岡ペガサート店」で店長をする増田久美(25)＝同市葵区＝。魅力的な社長さんと話すことで、働くって楽しいと思ってもらえればうれしいです」。イベントの冒頭、マイクを手に呼び掛けた。

＊＊

久美自身、就活の経験はない。中学を卒業した時点で、「もう教えてもらうことなんて何もない」と思った。高校時代はアルバイト主体の生活を送り、卒業後、そのままフリーターになった。居酒屋で働く夜型の生活。バイトは稼ぐ手段で、遊びが中心。友達の家に入り浸った時期もあった。

昼間の時間帯に働こうと、18歳でカフェでのバイトを始めた。仕事に対する価値観が一変した。影響を受けたのは当時の店長。バイトといえども、「プロの接客」「成長」を求められた。接客に没頭、マイクを手に呼び掛けた。

立つ本を渡されることもあった。気持ちを入れて、仕事をした。自分に合いに来られる常連客も増えると、「働く意味」も日に日に変化していった。

＊＊

20歳で店長になった。次は自分が人を育てる番と自覚した。一緒に働くのはほとんどがバイト。初体験の大学生。「この店がみんなの最初の仕事場をつくるんだ」。「ある意味、人生を預かるようなもの」と責任を感じた。

だから、大学3年になると就活に悩み、追い込まれるバイト仲間が気に掛かった。「社会に出るワクワク感」を伝えたら何か変わるかもと、店舗で月1回、「おシゴト塾」を開いた。店で知り合った社会人らを招き、バイトを含む学生たちに話をしてもらった。JOBコンも、その延長として昨夏に初めて挑戦したイベントだった。

＊＊

今の職場で働いて、たくさんの社会人、学生と出会い、つながった。学生と社会人も結びつけた。そして今、そのこと自体を自分の新しい仕事にしようと決めた。学生と企業の間に立ち、インターンシップ(就業体験)を提供する会社を立ち上げる。経営理念は「『働く楽しさのバトン』をつなぐ」にしようと考えている。

3年後、社員として雇いたい人がいる。もう声は掛けてある。「運命の相手」だ。

(敬称略)

静岡 Wakamono　つながる⑤

平成25年（2013年）3月25日（月曜日）朝刊

窓辺

働くことの意義

本田 美登里

先週、長野市新入社員激励大会で記念講演をさせていただきました。新入社員への講演ということで、いろんな本を読み返していたところ、稲盛和夫氏の著書に、こんなことが書かれていました。

人は一生懸命に働くことによって、単に生活の糧を得るだけではなく、心を磨くこともできる。労働を通じて「人間の心をつくる」というのは日本人にはとりわけ重要なこと。戦後「時間を提供して報酬を得る」という労働に対する価値観が確立された。言い換えれば労働とはお金を得るための手段でしかないということ。

本来、労働とは副次的には自己の欲望を抑え、心を鍛え、心を浄化する。そういう重要な機能がある（略）。そのことを忘れてしまっているため、現在の世相が荒廃している。

いわれてみればその通りだなぁと考えさせられました。また、このようにも言っています。現在のように豊かになって生きる糧を得るために働く必要が無くなると、勤勉でなくても、アルバイトでも糧が得られる。拘束されるのが嫌ならフリーターでいいということになる。

極端にいうと、親のスネかじりでも生きていける。高校を卒業しても就職しない若者が大勢出てくる。20歳を超えた多数の若者がいわば家に居候している。そういう状況の中で凶悪犯罪に走るケースがたくさん起こっている。これは、働くことを通じて人格を磨いてこなかったからだと。

講演会でこの話はしませんでしたが、自分自身こそがもう一度、働く意義を考えさせられた稲盛氏の言葉でした。

（AC長野女子監督＝静岡市出身）

平成25年（2013年）4月30日（火曜日）夕刊

【設問】

①「フリーター」とは何か調べ、下の解答欄にまとめよう。

②あなたは「フリーター」について、どう考えるか。そう考える理由や、背景、世の中の現状に触れながらまとめよう。

コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

【学習の効果】

この試みを行う前に、データ整理、講師による講話を行ったため、課題への興味関心が高かった。そのため、意欲的に質問に答え、コメントをまとめる者が多かった。生徒の反応はきわめて良好であった。フリーターを「よいか悪いか」だけで述べるのではなく、背景、現状、原因等を踏まえて述べるよい材料になった。

【指導上の注意、課題】

本校の生徒の多くが、推薦・AO入試で進学、作文が課せられる企業へ就職するので、例年2回の小論文模試を3回の実施に変更した。毎回事前の課題を出し、指導を行っているが思うような成果が出ていない。